

杉ノ沢

一九八五年五月一九日

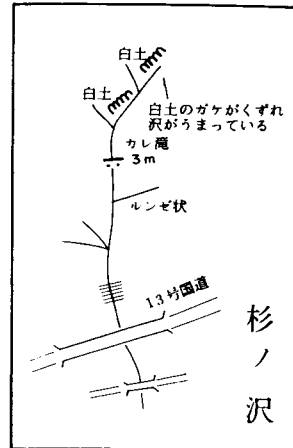
水の少ない出合を出発。すぐ上流には国道一三号にかかる大きな橋があり、そのためか、沢はジュースの空き缶やゴミが多い。右岸には水を運ぶパイプが通っている。二万五千

分の一地形図にはゴルジュの記号が記されているが、それはかなり上の方である。出合付近の両岸は杉林となっている。

わずかのナメを過ぎると、左手より二本の支流が入る。この支流の出合を過ぎると、水もほんとうに少なくなる。右手からのルンゼ状の支流出合を過ぎると、三びのカレ滝が現われる。この沢唯一の滝である。

滝の上流は水もまったく流れておらず、戻ろうか進もうかと考えながら歩いていくと、またチヨロチヨロと水が流れてくる。

左手より入る二本の支流出合を越えると、右岸の白い土の壁がくずれて沢を埋めている。ここで遡行を終



え、左岸の踏跡をたどって杉ノ平の集落に出る。(記)

「タイム」出合(八・五〇) ↓ 沢終了

(九・三〇)

上黒森沢(仮称)

一九八三年七月三〇日

円部地区の対岸に、黒森山に突き上げる二本の小沢がある。名前がはっきりしないので、ここでは上黒森

沢及び下黒森沢と呼んでおくことにする。沢の距離は短い、かなりの高度差があるので、滝があるのでは